主殿助源家忠ハ主殿助伊忠ノ子ナリ
ナレトモ又八郎ト稱シテ天正二年家ヲツギ
三河國深溝ニ住ス同十八年八月関東ニ
遷ヲセ給ハルトキ武藏國埼玉郡忠城ヲ賜
ハリ一万石ヲ頒チ文禄元年ニ絶國ノ上
代ニ移リ同國ニ矢川ノ城ニ侍ス慶
長九年八月一日城州伏見城ヨリ討死
ス時ニ年四十六ナリ

一家忠父と同しく
東照宮に奉仕す三州吉田町口の戦長篠陣
遠州二股城攻小山城川及び駿州田中等の
軍旅毎度功あり多く首を得たり　近代諸士傳畧
一天正七己卯年三月七日遠州牧野原城敵
軍要枢の地なるにより主殿助家忠に分番
を仰付られ勤仕す同十二日敵方へ乗込み
き戦功あり男女五人牛馬等数多を
奪取同十一月遠州瀧堺に伏兵を立敵兵
数多討取り分捕等も奪ひ先にすすむ
同廿四日
樋口様より此警を下さる　貞享書上
一天正八庚辰年遠州高天神城根小屋放火
して家忠発向し敵若干を討取り家人等
病となりたる者多く又従て遠州井口清
小山に戦ふ此年

東照公こゝゝゝゝゝ遠と手をくして長浜より
琵琶湖に移往し湖ゝ駿州と畧し給へり
而皆勝り家忠に命して江州安土より
其称と信長公に報せらる　貞享書上　近代諸士傳畧
一
天正十壬午年駿州用宗の城を攻む城主朋
比素駿河を降る乞に依ゝ駿河を同州久能城
に家忠を指入給へり後信州筋へ進放せ乞年
東照宮又相州小田原と甲州に戦ふ家忠ひひ
自ゝ伏兵をゝゝゝゝゝ敵を悩ひひ深者と
なり機と見ゝ進と遂に甲州と定む　同上
一
天正十二年
東照宮秀吉公と尾州羽黒に戦ひ給ふとき
家忠犬山城に詰ゝ敵の屯営と悩彼の森の
兵ゝ戦ひ首十四級と得ゝ又小牧山ゝ間
使ゝて樂田小ゝ首と得ゝ　近代諸士傳畧　大三川志
一
天正十二年十一月十二日石川伯耆守数正妻子

と携へ乙州岩崎城と避く京師に出奔せ
敬公京に上り
秀吉に謁せ　次に入り変れ別松平主殿助家忠の
居城深溝に至告げて家忠聞く兵を率し
て深溝城を發し行程二里ばかり汗馬を馳
せて岩崎に馳付くいまだ今至石川数正城
を避く尾州に退くはるる家忠また新城七
く助け構に陣せ乙州の諸士いまだ一騎も
来らず是によりて家忠従卒と配りて
岩崎城と敬云深溝を十六日
大神君岡崎城より渡御ありて乙州の諸士群
集せり時に松平主殿助家忠と云へる余りて
曰く今度敬公不意に岩崎を出奔せられ不
家忠獨逃に馳来りて城を警固せるの條
忠義と励し常に武備怠らざるべしと事
に當りて卒に慰せられもれ忠次感悦し
給ふ即ち家忠に休服を賜ふ深溝城に帰

一 之州元設文と云し岩淵城と修補せし時
松平主殿助を功と述に終るゆへ
神君平松金次郎重之と添蒲に遣はし
是と賞し給へ　武徳編年集成

一 天正十四年十月十七日秀吉の質大政所
十八日岩淵に下着ゆに依く松平主殿助
饗応と率しく池鯉鮒駅に迄迎へきの旨

大神君乃右命と奉ハ〻〻承忠まの岩城
よ系候し
大神君に謁し城よ入り岡崎と發して池
鯉鮒駅に述し池鯉鮒駅にをりて政所の京
興と警固し岩淵城よ入りむとき大政所
と見知る人すし若秀吉数凡く詳らへとも知
らず諸人是と疑ふ所
大神君御室　秀吉の妹　と渡れり岩淵城よ右

して大政不り封新あり是に依て共疑を
散す　義忠日記

一
天正十八年六月廿二日井伊兵部少輔直政松平
周防守康重小田原城篠曲輪に攻入る為て
是金掘り〻〻曲輪と郭外より穿て
む潜て城中に掘入り火根甚雨烈風に城中
に掘入り不忽ちに崩れて要害の城壁倒り
城中は兵周章して直政康重士卒と指揮し

ていて城中に迫出る者あり火利に乗して
攻て城と隔れ仆と進て鬨と發て城中に攻
入て火と敵営に放ちて旗と篠曲輪に建る
城兵諸方の持口と棄て一所に集り拒て戦
小直政康重城に攻入ると云て後援の兵
なきにより城中に軍と返せを夜
風雨甚し殊に闇夜なり直政康重味方に隙
し合せを不意に起りて城中に攻入り火と

放しとき之と發せり幸ひに味方の軍勢驚き
騒きて城中より軍と發して各々の陣と
發ひ將棋こと鹿垣ゆゑ陣中狼狽して
伍と乱れそこなきに松平主殿助家忠獨り陣と
みなさせ静まり先に依て家忠能群動の
子細と伝ひ敵城篠曲輪に當りてきれ聲ゆ
えゝ放火の光ゆゑ家忠使士をして堅く吾
陣とするゝしめ

大神君の御陣官より馳糸して渡ていそく
今夜のふ川そうかるゝに敵の夜襲にゆゑ
篠曲輪ゆうにきれ聲ゆえ放火の光
見ゆ城に門慈の者ゆゑ約束の烽と挙
るゆ又味方の兵ゆ夜風雨の時より糸して城
中より攻るゝいへゝも味方の後援なきにより
城中に先と吾者ゝせんゝ為と飢と發し火
と放つ先二重ゆ他のきれ首と達せ先

に依て陣中に騒動出来いたす
大神君家忠と云して命令して曰く諸将に
陣右伍と乱れのときに家忠獨り陣整て静
かに剃入万年周章に対面家忠紙を子細
と聞て速に走と達せしめ陣中に相騒擾
る事を家忠聞て紙に認る事
と大きに賞し給ふ 伊豆元 大久保忠
武徳大成記

一 文禄二年五月五日武州よりいく府中へ
而大明神の祭礼に相助家忠を民
馬と牽しむ
右徳五郎に然し彼馬と献せ 武徳編年集成